

「考える力」を育む授業づくり研究会 & 学習指導研修会

- 研究テーマ — 「誰一人取り残さない教育の実現」
- プロジェクト理念 — 「どの子どもにも自ら学びをつくっていきける姿を」

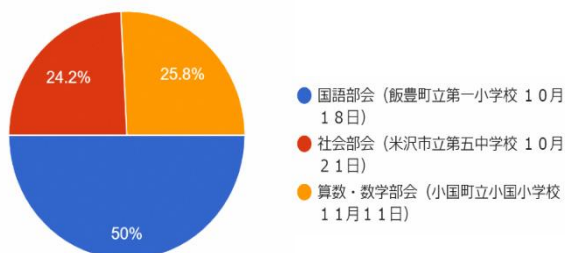
新学習指導要領全面実施から小学校は3年目、中学校は2年目となりました。コロナ禍により、授業を参観しての研修会がなかなか持てない中、今年度の「学習指導研修会」は多くの先生方に学習指導要領の考え方を踏まえた授業を見ていただく最良の機会となりました。

今年度は、上記の研究テーマとプロジェクト理念のもと、「国語」、「社会」、「算数・数学」の3つのチームに分かれて開催する学習指導者研修会において、

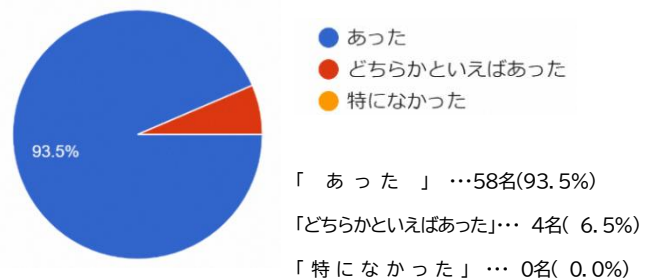
「『子どもの実態や発達段階に即して』、『誰一人取り残さず、子ども一人ひとりに自ら考える力を育む』授業の具体を置賜管内に発信する。」

をミッションとして当日の授業や事後研究会の持ち方などを構想していきました。各教科とも、小・中学校教員の合同チームで授業づくりを行うことで、学びの系統性に考慮した実践となりました。これらの実践は、今年度の「おきたまの教育：重点1」、「考える力を育む授業づくりのスタンダード」、国立教育政策研究所の「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に基づいた実践となっており、学習評価、指導案の形式等においても提案性の高い実践となっております。指導案及び当日の資料等を掲載していますので、ぜひご覧になって先生方ご自身の授業実践に活かしていただければと思います。

Q1. 参加した部会を選択してください。



Q2. 研修会では、自校で共有したい学びや校内研究に生かしたい学びはありましたか。



【実践の概要】 ◎:授業者

《 国語 》 【小学校第5学年で実施】

研究員:◎高橋 忠路 教諭(飯豊町立第一小学校)
大河原 彩季 教諭(米沢市立西部小学校)
手塚 佳緒里 教諭(南陽市立沖郷中学校)

単元名 ◆物語の全体を通して、作者の伝えたいことを捉え、
考えたことを「Q&Aブック」にまとめよう。
<教材名> 『たずねびと』 朽木 洋 (光村図書)



【研究員の声】

- 『誰一人取り残さない教育』のテーマのもと、実際に授業づくりに取り組んでみて、全員を見取り、全員に力をつけるためには、教師一人の力では難しいことだと感じました。子どもたち自身に学び方を身に付けさせ、自立した学習者を育てることで、「誰も取り残さない、みんなが成長できる」授業になるのではないかと感じました。
- 『誰一人取り残さない教育の実現』について、「本当に実現できるのだろうか?」とはじめは不安になったことを覚えております。「誰一人取り残さない授業にするにはどうしたらいいのかな?」と今まで以上に考えるきっかけとなりました。
- 今回、このプロジェクトに参加して「発信する楽しさ」「練り上げる楽しさ」「つながる楽しさ」を感じました。研究テーマの実現に向けて、また理念の達成のために、議論を交わし授業を作り上げていく過程が楽しかったです。

【参加者の感想より】

子ども達に問いを委ねることを学びました。教師主導から子どもたち主体の学びへと変わる転換期にあると思います。まだ何をどうしたらよいかわからない部分が多いですが、子どもたちに「学び方を教える」といったことが必要だと感じました。



自立した学習者を育てていくというねらいのもと、子ども主体の学びとなる授業のイメージを先生方と共有する必要があると感じました。自分の問いを立て、考えをもつこと、対話によりその考えを広げて深めることが深い学びであると考えます。学びに向かう様々な方法を子どもたちに経験させ、最終的には自分たちで適切に選べるように、発達段階に即して育てていくことが大切だと思いました。

《 社会 》 【中学校第3学年で実施】

研究員:◎高橋 幸平 教諭(米沢市立第五中学校)
神尾 光 教諭(白鷹町立白鷹中学校)
鈴木 丈司 教諭(長井市立長井小学校)

単元名 ◆国の政治の仕組み



【研究員の声】

- 「誰一人取り残さない教育の実現」という大きなテーマのもと、チームで授業をつくり上げることができた。小学校の実践もお聞きすることで、中学校3年生の段階で“何を考え、何を身につけることができればよいのか”について考え、「単元構成の工夫、社会とのつながり」を意識して授業を仕組むことができた。
- 子どもたちが話し合いの中で「ウェルビーイング」という考えを頻繁に話すようになり、意識の変化が感じられた。
- テーマと社会科(公民分野)との相性がよかった。公民的資質そのもののような感じさえる。授業づくりを進める中で、授業者の思いを汲み、それを達成するために議論する楽しさを味わうことができた。
- チームで考えることで、教科のおもしろさや深みを感じる事ができた。ひとつの教科を深めることができ、貴重な機会であり、満足感が高かった。この経験は他の教科の授業改善にもつながると思う。勤務校はもちろん、他の研究会等に広く発信していきたい。

【参加者の感想より】

生徒の発言や疑問を見極め、的確に拾い上げることが大切だと感じました。そのためには、授業者が教材を深く咀嚼し、ねらうべきゴールを明らかにしておかなければならないと感じました。



単元の目標、本時の目標を生徒自身が自分事としてとらえ、一生懸命考える姿が印象的でした。目標を自分のものとし、「没頭」して学び、そして、それが振り返りの中で自己の学びの調整につながるように指導していくことの大切さを学びました。



《 算数・数学 》 【小学校第6学年で実施】

研究員：◎齋藤 司 教諭(小国町立小国小学校)
四釜 航介 教諭(南陽市立宮内小学校)
青木 咲豊子 教諭(米沢市立第四中学校)



【单元名】 ◆比例と反比例

【研究員の声】

- 小・中学校でチームを組み、本当につながりを感じる研修会になった。小学校の先生が大切にしてくださったことを中学校へつないでいきたい。また「授業でつけさせたい力」は「生きていく上で必要な力」だと改めて感じた。
- 何より日常の授業で「誰一人取り残さない」という目的を持って授業改善に取り組むことができた。自分自身も子どもたちも成長できる良い機会になった。今後も子どもが考え続けるため教材・題材・課題等を精選していきたい。
- 「分からない」と言える雰囲気を作ったり、友達の意見をしっかりと聞き合ったりすることを大切にしてきた。また困り感の共有や振り返りを大切にしてきたことで、子どもの学びに向かう姿も変わってきていると実感できた。

【参加者の感想より】



子どもがツール・交流先・学び方等を自己選択し、主体的に活動していた姿が印象に残りました。

日常生活から課題を設定することで、子どもたちが「考えたい」「解決したい」と必要感を持って取り組んでいました。

本時だけでなく、学級経営・单元全体の教育活動全体を通した「誰一人取り残さない」というワードが強く心に残りました。



3つ研修会の指導案及び資料等はこちらのQRコードからご覧になれます。ぜひご活用ください。



<https://onl.bz/5Z1eWXM>

最後になりましたが、ご協力いただいた教科研究員の先生方及び会場校の先生方、そして学習指導研修会にご参加くださり熱心にご協議いただきました先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

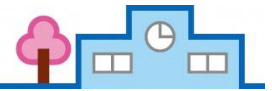
令和5年度から「考える力」を育む授業づくり研究会と学習指導研修会は「誰一人取り残さない授業づくり」プロジェクト会議と「誰一人取り残さない授業づくり」研修会 に改称して進めてまいります！

これからの時代を見据え、
ガラッと変身！
R5おきたまの教育が熱い!!

CMです

4月初旬、皆様のお手元に紙媒体でお届けいたします。

「置賜学力向上トライ訪問」



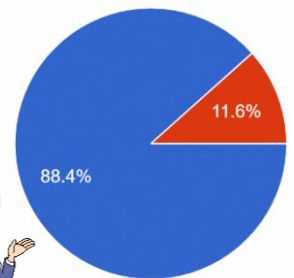
令和2年度よりスタートした本事業は、採用3年目の先生方を対象として訪問をさせていただいておりました。今年度はご希望のあった学校に訪問させていただくスタイルに変更し実施して参りました。希望のあった学校のうち置賜管内の小・中学校31校に訪問し、授業づくりや学力向上に向けた校内研究の進め方等について一緒に考えさせていただきました。

この事業は来年度までとなりますが、来年度も今年度同様に進めていく予定となっています(詳細は来年度4月にお知らせいたします)。今年度訪問させていただいた学校からのアンケート回答を紹介いたします。来年度も積極的にご活用いただければと思います。

<事後アンケート(対象教諭からの回答)より>

Q1. 学力向上トライ訪問における学力向上支援チームの助言は、ご自身の課題解決や指導力向上につながるものでしたか。(n=43)

- そう思う
- どちらかと言えば、そう思う
- どちらかと言えば、そう思わない
- 思わない



Q2. 学力向上トライ訪問についての感想や要望をお聞かせください。(一部抜粋)

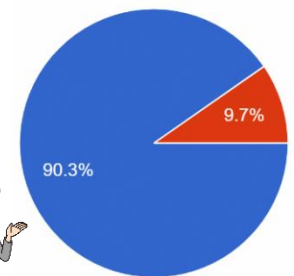
指導という言葉に始めは身構えてしまいましたが、温かくご指導いただき、とてもやる気が出ました。具体的な指導法をたくさん教えていただき参考になりました。

二度にわたって授業を見ていただき、指導・助言を頂きました。授業づくりはもちろんのこと、学級経営についても様々な助言いただき、たくさんを学ぶことができました。日常的な悩みなどに対して一緒に考えてくださり、多くのことを吸収することができました。とても有意義な時間だったと感じています。個人的には指導案等の提出がなかったことがとても負担軽減につながり、ぜひ来年度も機会をいただきたいと感じています。

<事後アンケート(管理職からの回答)より>

Q1. 来年度のトライ訪問の希望について、お聞かせください。(n=31)

- 来年度もトライ訪問を希望したいと考えている
- 来年度のトライ訪問は希望しない予定である



Q2. 来年度の訪問を希望する理由やトライ訪問について要望等をお聞かせください。(一部抜粋)

校内研究の組織的な取組みにご示唆をいただけることありがたく思っております。また、授業改善のポイントもご指導いただけるので、教師の資質向上につながりました。OJTも進みました。このようなことから、トライ訪問を来年度も希望したいと考えています。

参観いただいた授業について具体的に教えていただくとともに、若手に自信を与えてくださいました。また、「生徒を活躍させる授業を目指さなければ、いつまでも授業改善できない」とのご指摘が心に残りました。自分自身を含めて道半ばですが、職員と共有したところです。